

視覚障がい者とパソコン生活

平成二十四年九月二十五日

あじさい会館にて

相模原市視力障害者協会（相視協）

パソコンクラブ カルガモの皆さん

代表 伴瀬美恵子さん

利用者 宇都木茂さん、菊地初江さん

サポーター 大河原邦夫さん

寄田敏夫さん

司会 / 西本敬（ボランティア協会）

◆カルガモの生い立ち

西本 / 今日はお忙しいところ、お集まりいただきありがとうございます。

皆さまから自己紹介をお願いします。

寄田 / 私はパソコンのボランティアとして

してちょうど十年前、他の市の社協のボランティア入門講座に参加しました。六年半くらい前に相模原に引っ越してきて「カルガモ」に入れていただきました。



大河原 / 私は勤めているころパソコン

を使っていましたので、定年になった

後もパソコンを続けようと思い、カル

ガモでサポーターが足りないとお聞き

し、平成十五年に入会しました。だん

だん深入りして今は事務局をやっています。

（笑）

宇都木 / 私は相模原市視力障害者協会

の会員です。カルガモに入ったのは二

年半くらい前です。私は勤めているの

で平日は活動できませんがカルガモは

日曜日に活動しているのでお世話にな

っています。

伴瀬 / カルガモってなんだろうと思っ

ている方がいらっしやると思いますが、

カルガモの子

達、親ガモ

の後をよちよ

ち歩いて行く。

サポーターさ

んの後をよち

よち歩いてパ

ソコンを習得

したいという

集まりで二〇〇一年の十二月に出発し

ました。最初は若い方が代表をしてい

ましたが、現在は私が代表をしていま

す。

菊地 / 私は平成十八年にカルガモに入

会しました。二十年前から視力を失っ

ていましたので何か自分の言葉を記し

ておきたい。そしてパソコンに出会い

ました。今六年経ちましたけどやって

いてよかったなあと思っています。

西本 / ありがとうございます。カル

ガモの誕生についてご説明いただきました

と思います。

伴瀬 / 一人のボランティアの方の、そ

の当時の相視協の加藤会長に視力障が

い者の方にパソコンを教えたい、とい

うことから始まったのです。当時は障

がい者女性が四名とボランティア二名

というところで始まりました。次の年か

ら増えまして現在は十四名で、サポー

ターさんが十四名です。最初の四名が、

見えない人たちが立ち上げた会社「S

PAN」の講習会に参加し、四名のう

ち二名が六日間受けまして、その後立

ち上げました。

パソコンがいいなと思ったのはウィンドウズ95ができた時です。読み上げるソフトができたのでそれが大きな原因だと思っています。

◆ペン入力技術

西本／実は、視覚障がい者を取り巻くパソコンの状況が全く分からない人からすれば、今日は何の話なのか理解できないでしょうから、その辺のところをご説明いただけませんか。

菊地／目が不自由になると見ることも文字を書くこともできなくなります。パソコンというのは指で触っていけば



言葉がで
きる。言
葉ができ
れば相手
に伝わる。
小学生が
一つずつ
字を書く

感じで。私はそれを願って、キーボードを一つずつ打っていけば、自分の思いが相手に指で伝わる喜びで始めました。

西本／画面を見ながら動かすマウスは使えないので、キーボードだけで伝えるのですね。

宇都木／一番役に立っているのはメールが使えることですね。自分で打って全員にメールできるということですね
西本／情報を入手するというのではいかがですか

宇都木／僕の場合は、インターネットを利用して情報を収集しています。音声ソフトが読み上げてくれるので。画像は無理ですけど、文字の情報としてはいろんな情報が得られます。また、オフィスワードとかエクセルで書類を作って視覚障害者だけでなく他の人との共有ができるということが一番良いと思っています。

イメージがわいてくればチラシも楽しいなあ、作りたいなあと思います。

◆サポートする技術

西本／寄田さんはサポーターですがどんなところを手伝うのですか。

寄田／初心者の方とベテランの方は違います。初心者の方にはキーボードを五本の指で触るんですよ、といいますが、実は私は二本の指しか使っていないんですよ(笑)。

西本／初めての方にはマウスを使わずキーボードだけで教えるのは大変でしたか。

寄田／そうですね、十年前にパソコン入門講座に入りましていろいろ教わりました。その時の先生が実は伴瀬さんだったんですよ(笑)。その時の初日は大変だなあ

と思います。その後
は少しずつ
教わりなが
ら、また自
分でも勉強
してどうし



たら上手に教えられるか考えました。そして細く長く続けています。

西本／サポートする方が十四名いらっしゃるんですがその方々は普段自分で使っているスタイルではなくて、カルガモの皆さんに教えられる一つの技術として勉強するということなのですね。

寄田／サポーターとしての課題もそこにあると思います。皆さんほとんどが視覚障がい者に教える技術は学んでい



ないわけ
です。パ
ソコンに
ついては
知識も豊
富ですが
視覚障が
い者にど
う教える
かは一人

一人が工夫しています。これから、教
え方の基本などを講習会などで、一つ
にまとめていくことが必要だと思っ
ています。サポーターだけの勉強会も必

要だと思えます。

大河原／マウスを使うのは慣れていてもキーボードを使うのは大変です。その都度どうするんだっけ、ということ
です。寄田さんが一番頼りになるので、
その都度、寄田さんに聞いて進めてい
るのが実態です。

西本／早見表というか、キーボードの
これとこれを組み合わせるとこうなる
という感じになるのですか？

寄田／昨年のボランティア養成講座コ
ース別講座でテキストを作成しまして、
それをサポーター全員に使ってもらっ
ています。アプリケーションごとにシ
ョートカットはこんなものがあります
というのが載せてあります。それを見
ながら勉強会では教える。

◆パソコンの障がい者

西本／視覚障がい者の方の年齢層はど
うなんでしょう。

菊地／若い方のほうが取り入れるのも
早いですね。定年後の方はどうもきつ

いです。

西本／最高齢の方は？

伴瀬／七十代ですね、七十代から始め
た方もいる。

宇都木／少しでも視力があるころに始
めたほうが楽ですね。

西本／視力低下が進む前に少しでも早
く始められたほうがよいですね。キー
ボードだつて見えているときのほうが
ブライントタッチができますからね。

伴瀬／でも、全盲になられても今のス
クリーンはキーの読み上げもしてくれ
るので位置は分かります。キーガイド
でわかります。

私が嬉しかったのは文字を書いてそ
れをプリントアウトして見える友人と
文通もできることです。だからパソコ
ンのあれもやりたいこれもやりたいで
はなく、その時自分が何をしたいか、
ということが入れば、どんな状況の中
でも、年齢でも、楽しんでいただけれ
ばと思いますので、ぜひ入会してほし
いです。

西本／大事なのはどんな使い方をした

いのか、それが動機づけになりますね。
大河原／家族の方とどうしてもメールしたい。そして一年半かかってやっとできた方もいらつしやいます。

西本／携帯では小さくて大変ですけど、**大河原**／でも最近では携帯メールも使われてますよ。短いメールは携帯のほうが良いようです。カルガモの中ではパソコンが主ですけど他のいろいろなＩＴで情報交換しています。

西本／スマートフォンも使っていらつしやるんですか？

菊地／そこまではいけません。

伴滿／カルガモではありません。他の所では3本指を使って上手に使っている方もいます。

西本／ほかにこんな使い方をしているという事例はありますか

寄田／ある利用者は、地域の中で仕事をしていらつしやいますが、患者さんが少ないということで手紙を出さなければならぬ、でも文字だけではつまらないということで、絵を入れたこと、そのサポートをしてくださいとのこと。

私がインターネットから写真を撮ってそれを変換して送ってあげましたら、それを手紙の中に挿入して送る。そうしましたら患者さん増えました、ということ、良かったですねと一緒に喜びました(笑)。

寄田／一度楽譜を点字にしたいという方がいらして、ホームページで調べました。大学でそういうプロジェクトをやっていると場所があつて、河合楽器さんのソフトを交えらるとスキャナーで楽譜を読み込んでそれを点字にするという試みがあつたんです。実際やつてみたんですけどうまくいかなかつたんです。でも一番簡単な楽譜ですけど点字にしますからどういふ曲か当ててくださいと言つたら当てられたんですよ。(笑)

西本／楽譜そのものはスキャナーで読んでデジタルの楽譜にもつていくことはできますね。それを更に点字にするソフトがあれば良いですね。

西本／サポーターの方から見てこんな使い方があるのになあということがあ

りますか。

インターネットで調べるときはテキスト部分だけを読み上げるんですね。

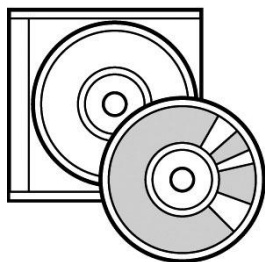
伴滿／でも、作り手がその写真とか絵の説明とかを入れれば読んでくれます。

寄田／例えば地図を載せる。それは画像なんですけど、それに「改札口を降りて、まっすぐに行つて、左に行つて何メートル」といった言葉を画像に書き込むといいのです。日本工業規格 JIS X 8341 というのがあります。

菊地／DVDを借りてきて映画を見る、音声が付いていけば家で楽しく見れて、大きな会場に行かなくても大丈夫です。もう少し音声を付けた映画が欲しい。今は、選ぶのがとても大変です。

伴滿／日本点字図書館では既存のDVDに対して音声

を付けたというのは、かなりのタイトルでできています。日本点字図書館のお知らせに出てき



ますけど、月一回開催されるDVDの操作体験に、自分のノートパソコンをもっていきますと、それにガイドDVDを入れる操作から、立ち上げて見るまでマンツーマンで教えてくれます。

寄田／知りませんでした。逆に利用者の方は他の利用者に今のような話をしてあげるといいですね。そうしますとパソコンでもそんなことができるのかということが拡がります。

寄田／「自分の音楽CDを作りましょう。どのようにして作るんですか？」ではカルガモに入って勉強しましょう」などの呼びかけもいいですね。

西本／お孫さんの音楽会の様子をCDにしましょうとか、具体的な目標を掲げてね。

寄田／サポートもやりやすいですね
西本／パソコンがあればどんどん世界が広がるのではないか。そして、伴瀬さん自身が利用方法の情報を多く持つておられるのでそれが原動力になるのではないのでしょうか。

◆今後の期待

西本／さて、いろいろお聞きしました。カルガモが目指していることが私にも理解できました。非常に大きくとらえると、操作のみならず、パソコンを入り口にした情報世界に案内する道案内といったところでしょうか。夢は大きいですね。



宇都木／目が見えないために読み書き

ができない、それができるといふ感動を嬉しく味わっています。

菊地／見える方の仲間と一緒に入りたい。一緒に楽しいことも悲しいことも、文字にして表してくれて、音声にして一緒に共有できること、パソコンやっ

やりとりで、言葉では上手に伝わってこないんですよ。これがメールですと、言いたいことがわかる。子どもなりの気持ちもわかり、私のことも心配しながらも、嬉しいことを書いてくれたり、それはぐっと来るんです。

メールができるということが入ったんですけれど満足です。そんなにあつちもこつちもできません。入って見たら、たくさんやることがあつて、あたふたしていますけど。見えない人もメールができるということを一般の人に知ってもらいたいです。

西本／伴瀬さんご自身は先陣をきって走つてらっしゃるけど、カルガモの課題としては今言えるとしたら何でしょうか？

伴瀬／パソコンはその人なりの思いの中で動いているのでスタートラインは一緒でも、その人の進む道によつて違ってきます。統一して教室をやるのは非常に難しい。皆のレベルを一定にしながら少しずつ先へ進んで行けたらと思います。それぞれニーズが違うので

単純な教室は難しいと思います。逆にボランティアさんが増えてきたので一人一人に対応していただけるというところがカルガモの強みかなとも思います。

西本／ボランティアの立場から大河原さんどうですか

大河原／今年の講座のようにボランティアも一緒になってカリキュラムを学んでいく、基礎的なところから高いところまで行くのでいい機会だと思



います。今後もあのような形で進めていければいいなあと思ってい

ます。

寄田／例会は月一回ですけど、月二回にして自身の体験など伝えていく場にしたらいのではないかと思

います。もうひとつ。ホームページを持って

いるんですけど、利用者の投稿を待つ

ています。なかなか集まらないです。是非たくさん寄せていただきたいです。全国の人がホームページを見ていますので。

西本／相模原市では市民向けの地域ポータルサイトをやっていますので、その利用もいかがでしょうか。ホームページも掲載できますし、コミュニティサイトをすることもできます。

寄田／ボランティアセンターさんからの紹介で、ボランティアが増えるよう、これからも、よろしく願います。

西本／今日は大変良いお話を聞かせていただきました。ありがとうございました。

(おわり)

